

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 広島市立幟町小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒730-0016
広島市立幟町小学校

E-mail : nobori@e.city.hiroshima.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 254名 女子 244名 合計 498名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他()

広島市立幟町小学校におけるユネスコスクール及びESDの活動報告

1 申請までの経緯

本校は、広島平和記念公園内の「原爆の子の像」及びノンフィクション文芸作品『サダコ』のモデルである佐々木禎子さんの母校であり、従前より全校を上げて「平和教育」に取り組んできました。

昨年度からは、学校教育目標「思いやりの心をもつたくましい子どもの育成」の達成をめざし、「思いやりの心を育てる幟プログラム」を作成し、思いやりの心をもつ子どもの育成に力を入れています。このことは、ユネスコの理念を実現するための2番目のテーマである「人権、民主主義の理解と促進」に深く結びつくと考え、加盟を申請しました。

加盟校となった今後は、現在進めている「思いやりの心を育てる幟プログラム」の実践を通して、本校がいじめのない思いやりにあふれた学校となるよう努力を続けていきます。

2 本校の取り組み態勢

本校では、校務分掌における研究推進部から提案されている「思いやりの心を育てる幟プログラム」を中心に、各部・各学年でその取り組みに向けて実践しています。

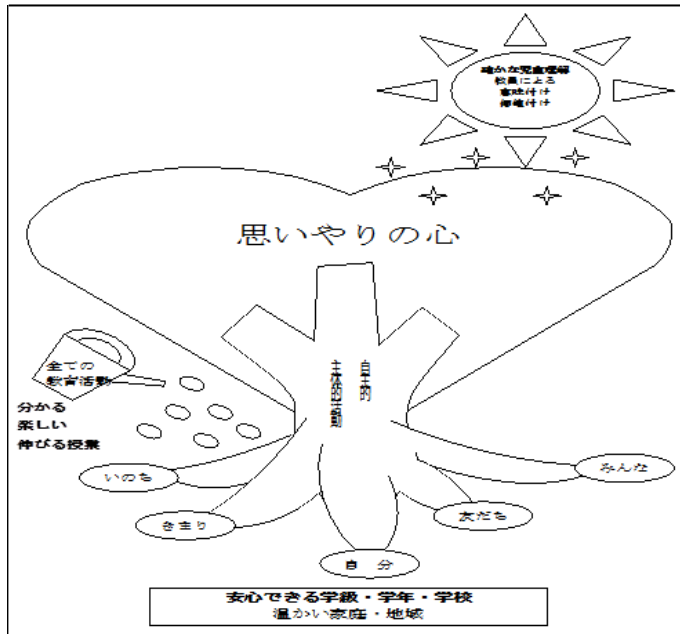
研究主題 思いやりの心をもつ子どもの育成

—思いやりの心を育てる学級・授業づくり—

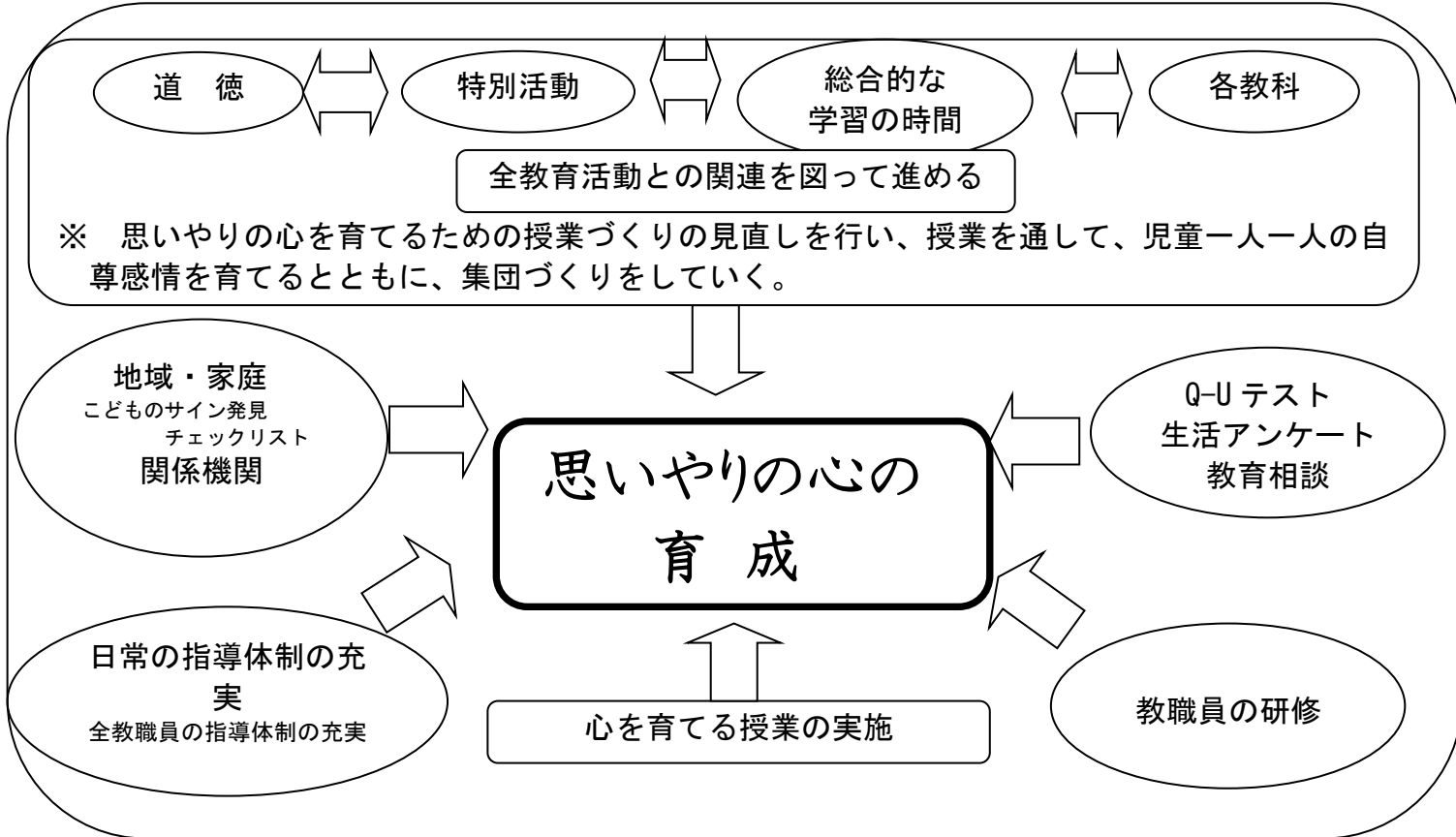
研究推進図

研究仮説

確かな児童理解と教員による「意味付け・価値付け」を重視するとともに、児童による「自主的・主体的活動」を仕組むことで、児童の安心感や自己肯定感が育まれ、「思いやりの心をもつ子ども」が育つであろう。



思いやりの心を育てる職プログラム



(1) 確かな児童理解

① 児童の実態把握

Q-Uテストを実施して児童の実態を把握し、その結果から児童への支援及び学級への働きかけを検討する。また、1月には、児童と保護者へのアンケートを行い、見えない部分を発見したり、日常観察で見えていた児童の理解を深めたりする。

② 児童の願いや思いを受け止める。

9月と2月に児童一人一人と個人面談を行い、児童の願いや思いを受け止めたり、その児童の良さを見つけたりして、児童理解に努める。(教育相談の実施)

③ 全職員間の共通理解と早期対応

教育相談の内容を学級・学年で分析・検討した後、全体研修会で報告し、全職員でいじめや子どもの変化の早期発見と早期対応を行う。

(2) 心を育てる授業の実施

思いやりの心を育てていくために、人権尊重の教育の充実を図り、お互いを尊重し合う人間関係づくりを推進していく。年間を通じた計画的・継続的指導を展開する。

① 心を育てる授業

自己肯定感や自尊感情を育て、子どもが安心して学校生活を送ることができる力を身に付けさせる取組を各学年で実践する。「やさしさ・思いやり・人を大事にする心」を育てる授業を系統的に行う。

② 人間関係づくりトレーニング

意図的、計画的、効果的なスキルトレーニングにより、自己肯定感を育て、対人関係能力を身に付けさせる。

(3) 平和教育の充実

ねらい：再び戦争を起こさせないこと



子どもたちに、原爆に対する情報を多く提供し、知識を増やすことだけでなく、身近な社会から平和な生活を築くことができるようにする



自分や身の回りの友だちを大切にすること

(1) 全校での取り組み

- ① 東京星美学園小学校と被爆ピアノを通して交流 (6月12日)
- ② 幟町公園慰霊祭への1年生の参加 (6月18日)
- ③ おりづる集会 戦争体験者のお話を聞く (7月5日)
- ④ 「原爆の子の像」慰霊祭 運営委員が参加 (7月24日)
- ⑤ 縮景園原爆犠牲者慰霊供養式 運営委員が参加 (8月1日)
- ⑥ 「原爆犠牲国民学校教師と子どもの像」慰霊祭 運営委員が参加 (8月3日)
- ⑦ 平和集会 全校で平和について、平和を願い気持ちをもつ (8月6日)
- ⑧ 日豪草の根交流会 (オーストラリア元捕虜の方との交流) (10月4日)
- ⑨ コスモス集会 佐々木禎子さんの命日に全校で集会を行う (10月25日)
- ⑩ 幟町中学校平和集会折鶴の日 (11月上旬) 運営委員会がメッセージを作成

- ⑪ サダコレガシーと連携 全校で千羽鶴を作成しアメリカへ送る（1月）
 ⑫ N P D I 会議参加オーストラリア外相に贈る千羽鶴を全校で作成（1月）

（2）各学年の取り組み

学年	具体的なねらい	実践内容
低学年	・慰霊祭（幟町公園）への参加、被爆樹木や遺物の見学、絵本や視聴覚教材を通して、 <u>原爆の恐ろしさを知り、平和を願う心情を育てる。</u>	●広島平和プログラム（平和ノート） ○生活科学習の中から ・幟町公園慰霊祭参加（1年生6月） ・被爆樹木、遺物の見学（2年生6月） ・原爆ドーム見学（1・2年生12月） ○道徳の学習の中から ○視聴覚教材を利用して ○絵本の読み聞かせ
中学年	・地域の慰霊碑や建造物、佐々木禎子さんの生涯や思いなどを調べることで、 <u>原爆の恐ろしさに対する理解を深め、平和を願い、友だちと協力して生活できるようにする。</u>	●広島平和プログラム（平和ノート） ○社会科学習と関連づけて ・くらしの移り変わり（3年生） ・地域の開発につくした人々（4年生） ○道徳の学習の中から ○総合的な学習の中から ・地域の慰霊碑や建造物の歴史（3年生）（教会や縮景園など） ・佐々木禎子さんについて調べ学習（4年生） ・平和新聞、パンフレット作り ・発表会（ふれあい参観11月） ○視聴覚教材を利用して
高学年	・共同製作や調べ学習、学習のまとめや発表会などを通して、 <u>相手や自分の考えを尊重しながら行動できるようにするとともに、歴史的、科学的な側面からも原爆について調べ、認識を深める。</u>	●広島平和プログラム（平和ノート） ○社会科の学習と関連づけて ・歴史（6年生） ○図工の学習と関連づけて ・平和のでっかい絵の制作（5年生6月） ○道徳の学習の中から ○総合的な学習の中から ・資料館による平和学習講座（5年生9月） ・ピースサミットに向けての平和学習（5年生2月） ・ピースサミットの作文（6年4月） ・碑めぐり（6年生9月） ・平和記念資料館の見学（6年生12月） ○視聴覚教材を利用して

実践にあたって

- I. 地域の生活と結びついた教材を用いる。

- ・ 地域の歴史や戦争体験の掘り起こし
- II. 子どもたちに主体的、集団的な取り組みをさせる。
 - ・ 受け身な学習でなく主体的な学習を
 - ・ 集団的な学習（調査、収集、見学、対話、表現、発表、共同製作、展示）
- III. 戦争や平和をテーマにした優れた教材を用いる。
- IV. 体験的に学習する。
 - ・ 資料館、慰霊碑などの見学や戦争体験の話を書く、映画の視聴など、直接五感に訴えるもの
- V. 子どもの発達段階をふまえる。

主として取り組んだ平和学習 【第4学年の事例】

- 題材 ヒロシマ ―今わたしたちにできること―
- 時期 6月～11月
- ねらい 佐々木禎子さんの生涯や、身近な方に聴き取りした原爆・戦争体験から学び得た事実や感想の発表を通して、広島市の幟町小の子どもにこそできる平和貢献を実感する。
- 取り組み

	学 習 活 動	子どもの反応	指導上の留意点 資料・準備物
6 月	平和教育プログラム ―今自分にできることをする― 【総合】『語り継ぐ被爆・戦争体験』 ・教師が親から聴き得た被爆・特攻体験を聴く。	身近な担任が父母から聴いた話を語り継ぐ姿から、自分にもできることを感じ取った。 「祖母も被爆したときいた」「私も祖父から聞いた話を子どもに伝えたい」「先生の親が生き残ってくれたので先生と出会えた」	・同じ広島で成長する者として、知り得た貴重な体験記を語り継ぐ責務があると感じとらせる。 ・自作 PP ・絵本「ヒロシマ」
	【行事】『折り鶴集会』 被爆体験を聴き原子爆弾や戦争の恐ろしさを知り平和への思いを深める。	大先輩からの被爆体験を聴き悲惨さや立ち向かう勇気を感じ取った。「岡田さんはとてもつらかったと思う」「幟町小学校も大変だった」	・岡田さんからお話を自分の聴いた体験談を比べながら聴かせる。
7 月	【道徳】『読み聞かせ』 絵本を読んで戦争時の様子を想像し感想を持つ。	「伸ちゃんがかわいそう」 「滋君を見つけたお母さんはとても悲しかったと思う」	絵本 『伸ちゃんの三輪車』 『真っ黒なお弁当』
	【夏休み課題】『聴き取	これまで何気なく聴い	・聴き取り内容や調

9月	り』 身近な人から原爆や戦争についての体験を聴き取り平和ノートに書き込む。	ていた 或いはこれまで聴いたことがなかった祖父母の体験を聴き取ることができた。「おじいちゃん（おばあちゃん等々）はものすごく大変だった」「70年草木も生えないと言われたのにこんなに立派な街にしてくださいました」「今の自分たちに命がつながっているのは奇跡」	べたことは「折り鶴ノート」に記入。
	【学活】 歌「ヒロシマの有る国で」の意味学習，斉唱	『『ヒロシマ』と書く意味が分かった』『子どもも戦争に巻き込まれると分かった』	・楽譜 ・製作伴奏 CD
10月	【社会】『くらしのうつりかわり—残したいもの・伝えたいもの』佐々木禎子さんの生涯と，同級生が世界に訴え原爆の子の像設立に至った経緯を学習し感想を持つ。	・禎子さんについてより身近に切実に考えられるようになった。「私たちと同じ幟町小学校だった禎子さんが折り鶴を折りながら被爆から6年もたって亡くなって悲しい」「禎子さんは家族のことも考えて優しい人だった」「世界に募金を呼びかけた同級生は勇気がある」「自分たちも何かしたい」	・社会科副読本「わたしたちの広島市」及び「平和ノート」を使って学習。 ・インターネットでの調べ学習
11月	【総合】 『平和記念資料館見学』 感想を記す。	・遺品や様子を表す人形などから当時の情景を想像できるようになった。「禎子さんの折った折り鶴がとても小さくてきれいだった」「本物の伸ちゃんの三輪車はぼろぼろだった」「お弁当が本当に真っ黒にこげていた」「びんや屋根や鉄骨がぐにゃぐにゃになっていた」「人が影だけになるなんて恐ろしい」…等々。	・「平和記念資料館見学のしおり」作成

	<p>【総合】『被爆者の描いた広島』を見てスケッチし、そのときの状況や被爆した方の気持ちを想像する。</p> <p>【総合】『ふれあい発表会』 台本作り・練習</p> <p>【行事】『コスモス集会』</p>	<p>「原爆がどんなにひどいことか分かった」「画家でもない普通の人々にこんな絵を描かせてしまうくらい心に刻まれた」「運動場が死体置き場になって悲しい」「子どもをかばって死んだお母さんの姿に涙が出る」「こんなになった広島をよく立て直してください」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平和記念資料館より『被爆者の描いた広島』50枚の絵を借りる（2週間） ・ 子どもたちの感想を繋いでシナリオを作成 ・ 児童代表が学習内容を他学年に紹介
	<p>【総合】『ふれあい発表会』 これまで学習したことをまとめ、①自分の言葉に心をこめ②スケッチした絵を効果的にスクリーンに映し③「ヒロシマの有る国で」を思いを込めて歌い、全員で「今わたしにできる『平和への学びや思いを伝えること』」をやり遂げた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習し積み上げてきたことが地域での発表につながり児童は大きな達成感を得られた。 「話をしてくれたおじいちゃんが私の発表をきいて感動し喜んでくれた」「自分たちの発表を聞いて涙を流す方を見て伝えていくことが大事なんだと分かった」「自分の子どもにもこの話を伝えたい」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被爆者の描かれた絵を見てスケッチした児童画をスキャナで取り込み当時の写真画像と併せたPP、プロジェクター ・ 歌には児童の簡易伴奏と少リコーダーの副奏。

○ 成果

卒業生である佐々木禎子さんの生涯をその友人たちが伝承し続けられたように、自分たちの目標も「語り継ぐこと」にテーマを絞ったことで、身近な人からお話を聴き取ったり『被爆者の絵』を描き取ったりする活動が充実した濃いものとなった。ふれあい参観での発表が多くの方に「伝える」集大成の場となり、意義深かった。言葉や歌に素直に心を込められたのは、積み上げた学習内容が子どもの心に響いていたからだと思う。

○ 資料（活動の様子、児童の感想）

平和記念資料館からお借りした被爆者の方が描かれた絵を鑑賞し、心に響いた絵や文をスケッチしている様子（10月）。



被爆者の描かれた絵を見て児童が描いた絵



ふれあい発表会で、これまでの学習のまとめを地域の方へ発信（11月）



3 来年度に向けて

今年度まで実践してきた「平和教育年間実施表」「道徳教育年間計画」と「ライフスキル年間計画」などを一つにまとめた「幟プログラム」を完成させ、ESDとしての実践を系統的、統合的に行っていく。